



# 第三次あきる野市 環境基本計画

概要版

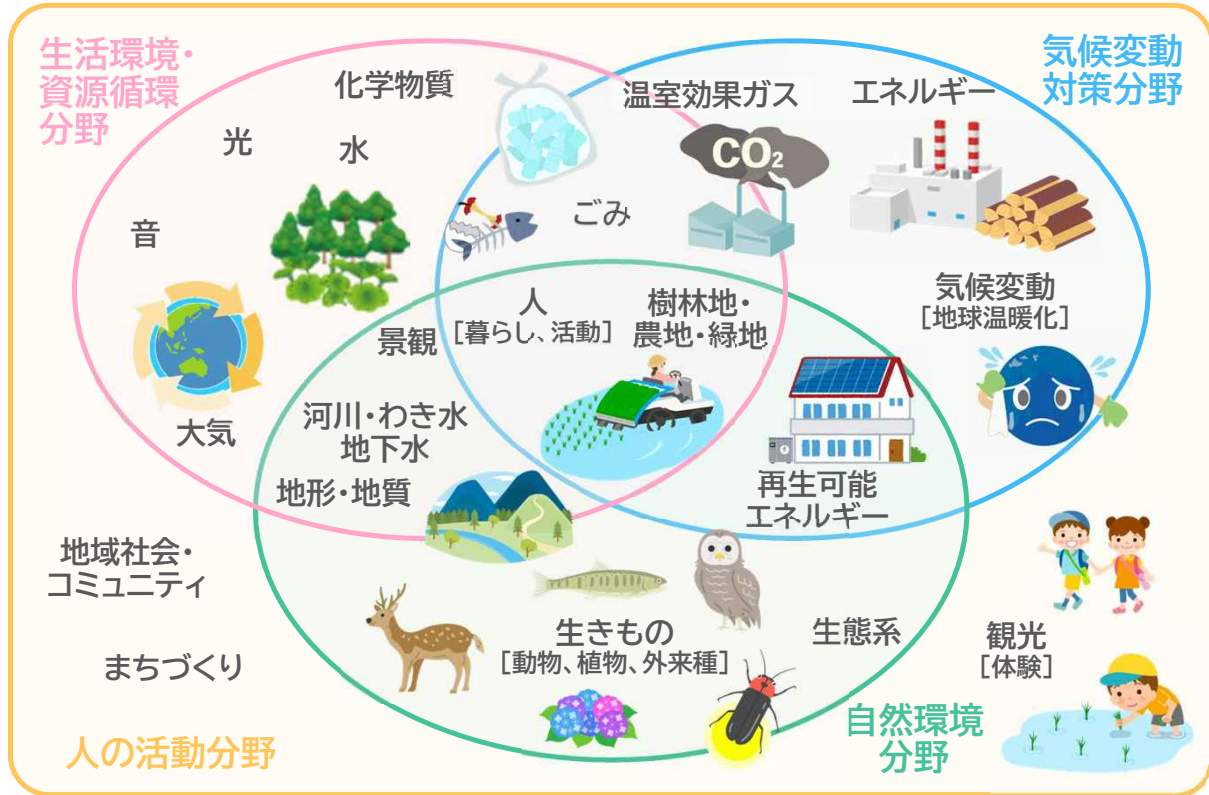
(案)

未来まで続く  
まち  
色彩躍る故郷あきる野  
～ みんなで守る  
美しく豊かな自然 ～

令和●年  
●月

# かんきょう 環境基本計画とは

「環境基本計画」とは、あきる野市の環境を良くするために、私たちが何に取り組めば良いかを示したものです。計画の対象の期間は、令和8(2026)年度から令和17(2035)年度までの10年間です。私たちの暮らしは、自然の恵みの上に成り立っています。良好な環境を守り残していくために、4つの分野について取組を進めます。



本計画には 3つの計画が含まれます

## 第三次あきる野市 環境基本計画

### 生物多様性あきる野戦略

生物多様性の保全及び持続可能な利用に関する計画

### あきる野市 地球温暖化対策実行計画(区域施策編)

温室効果ガスの排出量を削減する対策を推進する計画

### あきる野市地域気候変動適応計画

気候変動の影響による被害を防いだり、小さくしたりする取組を推進する計画

## 推進主体

みんなが 主役です!!

市民・事業者・市が協力して取組を進めていきます。

環境を守るよう意識して生活する!!

市民

会社やお店で、環境を守りながら仕事を する!!

事業者

協力

環境を守るため、様々な取組を計画的に進める!!  
みんなに活動を広げる!!

あきる野市

## 生物多様性とは

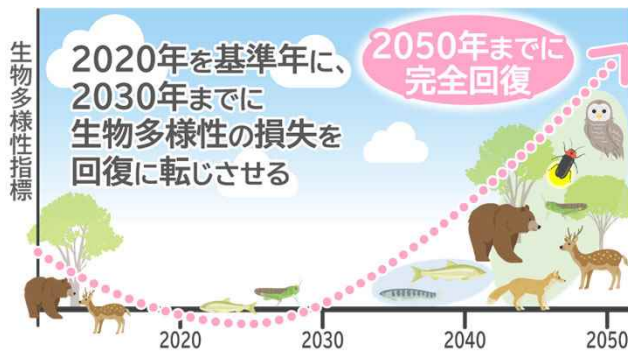
### 生物多様性とは

色々な個性を持った生きものたちが、森林や川、市街地などの様々な環境でお互いの個性を生かしながら、つながり合っていることをいいます。



### ネイチャーポジティブ(自然再興)とは

地球上では多くの生きものが急速に姿を消しており、過去1,000万年の平均に比べて10~100倍のスピードで絶滅が進んでいるといわれています。



これまでの「守る」だけの取組では足りず、経済・社会・技術などが力を合わせて、自然を回復させていくことが大切です。令和12(2030)年までに、生物多様性が回復し始めて、令和32(2050)年までに完全に回復することを目指しています。

### 30by30(サーティ・バイ・サーティ)目標と自然共生サイト

令和12(2030)年までに、世界中の陸と海の30%以上の自然を守ろうという、世界共通の目標です。

自然共生サイト：  
企業・市民団体の取組や市町村が地域の人と協力した取組によって、生物多様性が保全されている場所を国が認定するもの

あきる野市では、「天然水の森 とうきょう秋川」が自然共生サイトとして認定されています。



### 生物多様性の保全・創出・活用とは

生物多様性は私たちの生活を支える大切な土台です。

#### 保全

今ある自然や生態系を守ること

森林や川、田んぼ、畑に暮らす生きもののおすまかを守ること。

#### 創出

自然や生態系を取り戻すこと

生きもののために新しく自然やすまかをつくること。

#### 活用

生きものや自然の力を借りること

生きものや自然の力を上手に使うって、人の暮らしやまちを良くすること。

## あきる野市の自然環境について

### あきる野市に生息・生育している生きもの

あきる野市には、森林や農地、川などの様々な自然があり、たくさんの種類の生きものが暮らしています。トウキョウサンショウウオやオオタカ、ヤマトセンブリなどの希少な生きものもいます。しかし、こうした希少な生きものは、里山や川などの環境が悪くなれば、いなくなってしまうかもしれません。



トウキョウ  
サンショウウオ

### ゆうがいちようじゅう がいらいせいぶつ 有害鳥獣と外来生物

あきる野市では、里山などでのクマの目撃、シカの食害、イノシシやサルなどの農作物に被害を与える生きもの(有害鳥獣)や、アライグマなどの国外などから入ってきた生きもの(外来生物)が確認されており、追いはらいや捕まえる取組をしています。

有害鳥獣：農林水産業や私たちの生活、生態系に被害を与える野生の生きもののこと。

外来生物：もともとその地域にいなかった生きもので、人の活動によって他の地域から入ってきた生きもののこと。



ほかく  
捕獲した  
アライグマ

### 生物多様性を活用するってどういうこと？

地域でつくられたものをその地域で使うことを「地産地消」といいます。例えば、同じ地域でつくられた野菜を食べることで、身近な自然や生物多様性を知ることができます。また、つくられた場所から運ぶために使うエネルギーを減らすこともできます。

さらに、山や川で学ぶことは「生物多様性の活用」の一つとなります。その時は自然を大切にする気持ちが大切です。



環境学習



生きもの  
の調査

### 森林レンジャーあきる野

地域の人と協力して、山の道(昔道や尾根道)をきれいにしたり、自然の景色を守ったりしています。市内に生息する生きものの調査、滝や大きな木などの地域にある大事なものを探す取組をしています。

おねみち

### 課題

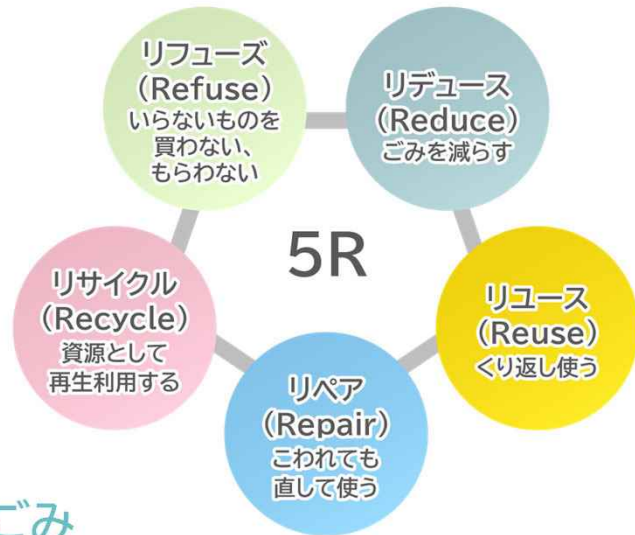
希少な生きものを守る活動や、国外などから入ってきた外来生物をつかまえたり、増やさないための取組の強化が必要です。自然の大切さや役割を学べる場所、自然のことを教える人を増やしていくことが必要です。

 じゅんかん 資源循環型社会とは

私たちは生活する中で、たくさんのごみを出しています。ものをたくさん消費したりごみが増えたりすると、環境に大きな負担がかかります。そのため、ごみの量を減らし、資源として使えるものはもう一度使うことが大切です。

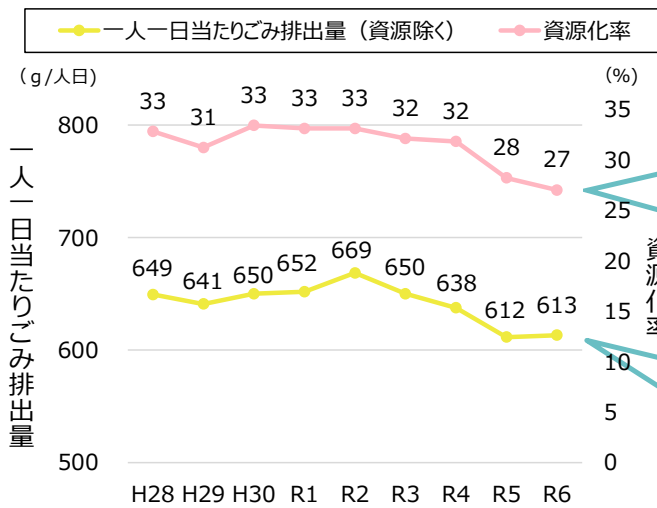
ごみにしていたものを資源としてくり返し使う、むだのない社会を「資源循環型社会」といいます。

そのための5つの行動を表した言葉を「5R」といいます。この5つの行動をみんなが行うことで、環境にやさしい社会をつくることを目指します。



 あきる野市で出ているごみ

あきる野市で出されているごみは少しずつ減ってきています。一方で、プラスチックごみの割合は多摩地域の平均より多くなっています。



資源化率は、出されたごみのうち資源として再利用された割合を表します。令和14(2032)年度までに35%まで高めることを目指しています。

一人が一日に出すごみを、令和14(2032)年度までに554g/人日まで減らすことを目指しています。

ごみ排出量・資源化率の推移  
出典：公益財団法人東京市町村自治調査会 多摩地域ごみ実態調査

 **課題**

食べられるのに捨てられてしまう「食品ロス」を減らしたり、プラスチックの包みが少ない商品を選んだりして、ごみを減らすことが大切です。また、ごみをきちんと分別して、資源として利用することも必要です。

## 気候変動の影響と対策

地球の周りにある温室効果ガスが増えて、地球が温まり過ぎてしまうことを「地球温暖化」といいます。温室効果ガスは、私たちが石油や石炭、天然ガス、そこから作られた電気をたくさん使ったことで増えてきました。地球温暖化の影響で気候が変わることを「気候変動」といい、暑さだけでなく、雨が一度にたくさん降るなど、世界中の人の暮らしに様々な影響を与えています。

あきる野市においても、平均気温が高くなってきていることに加えて、台風による被害が発生したり、野菜が育ちにくくなったりしています。

< 気候変動によって起きること >



気候変動による影響を小さくするために、世界の国々は温室効果ガスの排出量を減らしていくことを約束しました。これを「パリ協定」といいます。

日本では、平成25(2013)年度の温室効果ガス排出量と比べて、令和12(2030)年度に46%を減らし、さらに令和17(2035)年度に60%を減らすことを目標としています。

さらに、令和32(2050)年度までに、温室効果ガス排出量をゼロにすることを目指しています。あきる野市でも「2050年ゼロカーボンシティ」を宣言しています。

## 緩和策と適応策とは

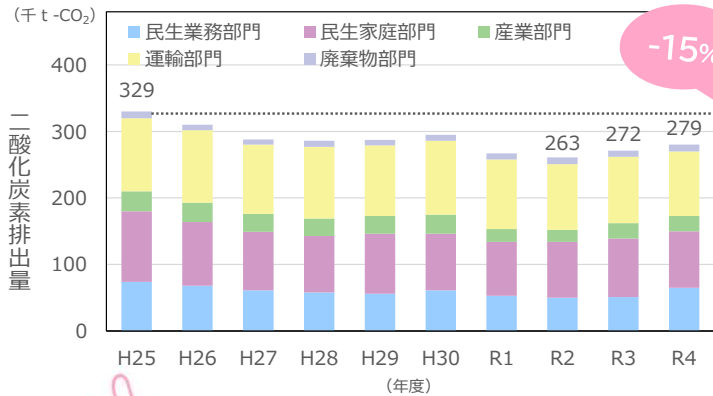
気候変動対策には、温室効果ガスの排出量を減らす「緩和」と、気候変動による被害を減らす「適応」の2つがあります。「緩和」と「適応」の両方に取り組むことが大切です。



出典: 東京都気候変動適応センター

## あきる野市の温室効果ガス排出量

温室効果ガスにはいくつかの種類がありますが、あきる野市で排出されている温室効果ガスの約9割が、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)です。



令和4(2022)年度の二酸化炭素排出量は、平成25(2013)年度から15%減少しました。

二酸化炭素排出量の変化  
出典: オール東京62市区町村共同事業「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」  
「多摩地域の温室効果ガス排出量(1990年度~2022年度)」から作成

再生可能エネルギーは二酸化炭素を排出しない自然のエネルギー

### 課題

二酸化炭素排出量を減らすために、電気やガソリンなどのエネルギーを使う量を減らしたり、太陽光や太陽熱、水力、木質バイオマスなどの再生可能エネルギーの利用を広げていくことが大切です。気候変動によるすでに起きている影響やこれから起きる影響に適応できるまちを目指す必要があります。

## 環境学習と仲間づくり

## 人の活動分野

環境を良くするためには、市民や事業者、市の全員が協力して取り組むことが大切です。あきる野市では、市民や事業者が、環境について学んだり、環境保全活動をする仲間を見つけたりできるように、様々な取組をしています。

例えば、自然をじっくりと体験することができるように、「小宮ふるさと自然体験学校」があります。また、「環境フェスティバル」では、子どもから大人まで、多くの人に環境保全の大切さを伝えています。

さらに、市内には環境保全を行う市民団体がたくさんありますが、メンバーの高齢化が進んでおり、次の世代へ受けついでいくことが大切です。



活動の様子

### 課題

環境について学び、体験する機会を増やすことが大切です。環境保全団体の活動を市民に分かりやすく知らせて、若い世代もより参加しやすいようにすることが必要です。

## 望ましい環境像

この計画で目指す将来の姿を設定しました。

未来まで続く色彩躍る故郷あきる野  
～みんなで守る美しく豊かな自然～

豊かな自然に囲まれたあきる野を未来に引き継いでいくためには、みんなで自然環境や生活環境の保全、資源循環や気候変動対策に取り組み、守り続けることが大切です。

## 分野別の方針

環境分野ごとに取組の指針を立てました。

### 1 自然環境分野

豊かな自然を守り育て、  
多様な生きものと共生した  
環境を次世代へ継承する

### 2 生活環境・資源循環分野

資源が循環し、  
清潔で快適な  
まちを創出する

### 3 気候変動対策分野

地球温暖化を  
緩和するとともに、  
気候変動に適応する

### 4 人の活動分野

市民・事業者が環境への  
理解を深め、市と協働して  
取組を推進する

## あきる野市の生物多様性の目標

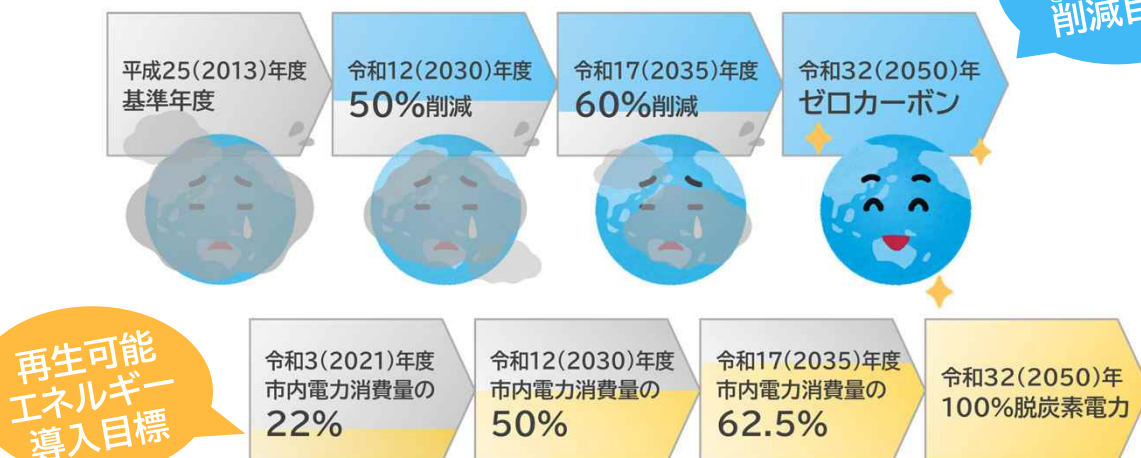
生物多様性に関わる将来の状態について目標のイメージ図を設定しました。

美しい自然と生物多様性の恵みにあふれ、  
その恵みを大切にしながら、  
みんなで守り育て伝えていくまち

生物多様性の  
目標イメージを11ページ  
に掲載しました

## あきる野市の気候変動対策の目標

「2050年ゼロカーボンシティ」に向けた目標を設定しました。





# 施策体系図

施策方針に基づいて  
施策(取組)を実施します

望ましい環境像

未来まで続く色彩躍る故郷あきる野くみんなで守る美しく豊かな自然

分野	施策の柱	施策方針
1 自然環境分野	基礎情報の調査・収集	生物多様性の把握・モニタリングの継続
		生物多様性に関する情報の共有化
	生物多様性の保全	生物多様性保全の推進
		有害鳥獣対策及び外来生物対策の推進
		生態系の保全、自然再興の実現に向けた取組の推進
	生物多様性の創出	恵み豊かな緑と水の創出
		市街地における緑の保全・創出
	生物多様性の活用	地産地消の推進
		生物多様性を学ぶ、触れ合う場と機会の提供
		生態系サービスの活用検討
2 生活環境・資源循環分野	公害対策の推進	公害の防止
	資源循環型社会の構築	5Rの推進
		環境に配慮した収集・処理の推進
清潔で快適なまちづくりの推進	清潔なまちづくり	
	快適で魅力あふれるまちづくり	
3 気候変動対策分野	省エネ活動の徹底	家庭生活における省エネの推進
		事業活動における省エネの推進
	再エネ導入・調達の拡大	再エネ導入の推進
		再エネ調達の推進
	移動手段の脱炭素化	移動手段の転換等
	緑の活用	自動車の燃料使用量の節減
		吸収源対策(グリーンカーボン)の推進
	気候変動への適応	農林水産業への影響への対応
		水環境・水資源への影響への対応
		自然生態系への影響への対応
自然災害への備え		
健康被害への対策		
産業・経済活動への影響への対応		
国民生活・都市生活への影響への対応		
4 人の活動分野	人材の育成	次世代を担う子ども達の育成
		後継者の育成
		あらゆる世代を対象とした普及啓発の実施
	協働体制の構築	協働体制の整備
		市民との協働の促進
	事業者との協働の促進	

重点プロジェクト

あきる野市の状態を踏まえて特に力を入れる取組です



## 自然環境分野

# 美しく豊かな自然を未来につなぐプロジェクト

里山や森林、畑や川などの自然を保全・活用し、豊かな生物多様性を未来につなげていくための取組を、地域ぐるみで進めます。また、自然と触れ合うきっかけづくりや、環境を大切にする気持ちを高めることで、自然をこわさず、長く大切にしながら、ともに暮らしていくことを進めます。

### 森林・里山管理の体制整備

生物多様性に配慮した営農・営林

自然再生・保全活動の推進

### 有害鳥獣・外来種対策

ネイチャーポジティブの実現

### 地域での協働

#### 市民・事業者の行動の活性化

自然と触れ合う機会の創出

#### 観光・アウトドアにおける環境保全

#### 自然の魅力向上



## 生活環境・資源循環分野

# みんなで守る美しい循環のまちプロジェクト

資源が循環する持続可能な地域を目指して、「5R」の取組を進めます。また、清掃活動や、山登りなどの観光において環境を大切にする気持ちの輪を広げます。

美しい自然や街並みと、それを守るという気持ちが、あきる野市の“良いところ”となることを目指します。

### 5R

#### リフューズ

不要なものを買わない、断る

#### リデュース

コンポスト

ごみの発生を減らす

#### リサイクル

再生利用する

#### リペア

修繕して使う

#### リユース

繰り返し使う

### 自然・街並みの美化

#### アウトドアレジャーでの環境意識向上

ごみの持ち帰り

#### 清掃活動の周知・つながり形成

一斉清掃



## 気候変動対策分野

# エネルギーの転換でストップ地球温暖化プロジェクト

再生可能エネルギーの導入や、電力プランの切り替えを進めます。また、車などによる二酸化炭素排出量の削減に向けて、公共交通の利用を進めます。

これらの取組は、温室効果ガス排出量の削減のほかに、災害の時に電気が使えたり、渋滞を減らして空気の状態を良くするという効果もあります。

### 再生可能エネルギーの利用

発電・熱利用設備の導入

エネルギー利用による二酸化炭素排出量の削減

電力プランの切り替え

光熱費の削減

災害時の電源確保

火力

再生可能エネルギー

選択!!

### 公共交通の利用

移動に伴う二酸化炭素排出量の削減

電気自動車の利用環境の整備

公共交通機関の利便性向上、活用促進

大気、騒音の改善

渋滞の解消



## 人の活動分野

# 環境配慮を暮らしの常識に！ビジネスの力に！プロジェクト

普段の暮らしや仕事において環境のことを考えた行動が当たり前になることを目指します。また、市民や事業者が自分から行動をするために、環境を守る活動を分かりやすく見せることで、環境を守る活動の輪を広げていきます。

### 環境保全の取組

環境に配慮した行動選択

脱炭素経営

企業の森

### 気候変動への適応

暑熱環境の改善

遮熱性塗装

グリーンカーテン

影響の把握

農作物被害

熱中症患者数

新たな品種の試作

### 市民・事業者の環境保全活動への参加の後押し

環境保全活動の紹介

生物多様性

保全活動成果の発表

